

町教育改善推進委員会が提言

～洞爺湖町子どもたちの「生きる力」を育む～

■問合せ 教育委員会学校教育グループ ☎74-3009



網嶋教育長に提言書を提出する名須川敏雄委員長（右）

洞爺湖町の教育改善と具体策を論議してきた洞爺湖町教育改善推進委員会（委員長・名須川敏雄、副委員長・田中中学校長）が、2月12日、網嶋勉教育長に提言書を提出しました。

教育改善推進委員会

昨年8月に、小中学校の教職員、PTA代表、教育行政の担当者など34人で発足しました。

「学力向上部会」「特色ある教育部会」「家庭と地域の連携部会」の3部会を作り、それぞれ「各校共通の指標となる洞爺湖町学力向上スタンダード」の作

成「洞爺湖町の環境や人材を活かした特色ある教育の取組」「学校・家庭・地域が相互補完的に教育力を高める取組」のテーマで、検討を進めてきました。4回の部会検討の末、1月21日には、同委員会の全体会議が行われ、提言書が承認されました。

提言の内容

●学力向上部会

洞爺湖町自立的学びのためのスタンダード10（テン）を作成し、授業の充実（学校の取組）、家庭学習の充実（家庭との連携）、学習環境の整備

（行政・地域の支援）の三つの視点で目指すべき10の指標を提起しました。授業の充実に、授業の充実について、「児童生徒が自ら考え、表現できる授業をめざす」としています。家庭学習の充実には、「学習の補完や発展に結びつく宿題を工夫するとともに、家庭と一

体となり、宿題をきちんとやる習慣を確立すること」として、家庭との結びつきを強めていくことなどを提起しています。さらに学習環境の整備では、「揭示の工夫や教科教室など、学びへの意欲を高め、学びの足跡や学びを振り返ることができる学習環境をつくる」とし、教育機器の積極的導入と活用で、学習意欲や授業の充実を図ることにしています。

●特色ある教育部会

地域の特性から、有珠山を中核とした防災教育の推進及び地域の素材を活かした教育活動の推進を打ち出しました。

現在の児童生徒は、2000年噴火以降に生まれていることから、避難などの体験が重要であることを指摘し、有珠山の特徵から「防災」ではなく「減災」との視点を盛り込んでいます。児童生徒の学習と同時に教職員の学習でもあることを明記。具体的には、避難所開設体験の学習として、1977年噴火があった8月7日に、中学2年生を対象に、物資の運搬、設営などを学ぶことを提案しています。

新たに町に赴任してきた教職

員を対象にした研修を実施し、特色ある教育の理解に努めます。

●家庭・地域との連携部会

洞爺湖町PTA連合会の活性化と教育委員会との連携の重要性から①子育ての孤立を防ぐPTA活動の推進②社会教育行政と連携し、多様な価値観に触れ社会性を身につける活動の推進を柱に提言がまとめられました。

まず、PTA活動の推進では、町PTA憲章の作成、漁業・農業の親子体験教室、研修会の充実が提起されています。社会教育行政との連携では、「総合型地域スポーツクラブ」の充実、発展を目指し、洞爺湖スポーツクラブの活動などを支援しながら組織的にスポーツや文化の環境を整えていくことを求めています。

学校以外の学舎の提供についても、歴史・考古学や英会話、寺子屋などの教室なども提案。読書活動の推進についても、書週間の工夫と強化や本の借りやすい環境づくりの工夫なども提起しています。

人づくりは町づくり。今後の取組で町の教育力をさらに高め、町の発展に寄与することが大いに期待されると言えるでしょう。